

くじゅう黒岳～納涼?!ハイク～

【報告者】T口

【日時】2018年7月16日

【天候】晴れ

【参加者】I藤 (CL)、T口

《コースタイム》

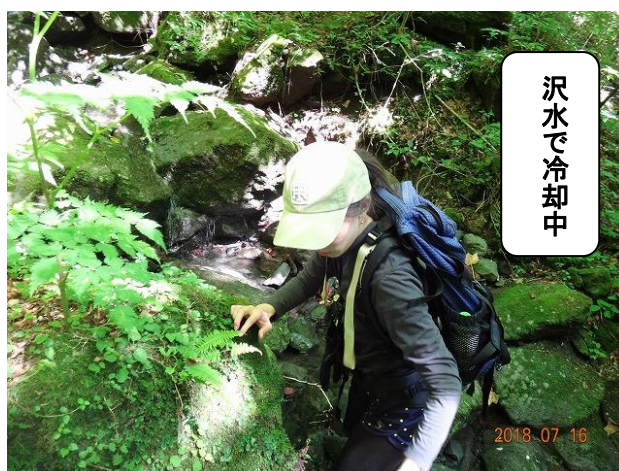
8:49 男池登山口 - 9:31 かくし水 - 10:12 ソババツケ - 12:48 風穴 (昼食)
- 13:22 風穴 - 14:22 ソババツケ - 14:58 かくし水 - 15:26 男池
- 15:32 下山 (予定では天狗岩を目指していましたが、次回のお楽しみとなりました)

《 報 告 》

I藤さんにお誘いいただき、ピナクル会員として初めてハイキングに同行させていただきました。登山用ザックを背負うこと自体が初なほどホヤホヤの新米会員でしたが、随時あたたかく気遣ってくださるとともに登山のいろはを教えてくださいましたこと、本当にありがたい一日でした。

自分の体力に一抹の不安と重たい緊張感を覚えながらも当日を迎えましたが、登山口に向かう車中でI藤さんと楽しくお話をさせていただいたことで徐々に緊張がほぐれ、身体も気持ちも軽くなったところで、さあ登山スタート!です。宝満山清掃登山(見学登山)で延々と続く規則的な石段の洗礼を受けた苦い記憶とは裏腹に、整備された木道から男池を横切るとすぐに、細い木々が不規則に連なる原生林に囲まれて気持ちも徐々に高揚していきました。緑豊かな自然環境に元気をもらいつつ、I藤さんの背中を心強く思いつつ、まずはかくし水を目指して登り進めていきました。風がなく山中でもじっとり暑さを感じる程でしたので、かくし水に着いて触れた湧き水のきんとした冷たさは格別でした。時間が押していた事もあり、湧き水を飲んだその足で次はソババツケ(湿地帯)へ。いつもは沼地もあるそうですが、この日は湿った地面があるだけ…。涼むどころか暑さを余計に感じていたところに、I藤さんから冷えたゼリーの差し入れをいただき、ぷるんとした甘みで生き返りました。ありがとうございます。この時点でI藤さんはおにぎりも食べており、私はなんとなく食べなかったのですが後から空腹で力が出なくなり、行動食の意味をしっかりと痛感しました。

I藤さんが「先頭を歩くのも楽しいですよ」と気遣ってくださり、ソババツケから先頭を務めさせていただいたのですが、前を歩くパーティにくっついていけば大丈夫と判断したことで看板を見落とし、はなから道を誤ってしまいました。行動食を補充しつつなんとか奥ゼリ(1400m地点)に辿り着いた頃、I藤さんが違和感に気付き、スマホと地図とコンパスを取り出して現在地を確認してくれました。この時、読図のやり方を間近で見せていただきとても勉強になりました。幸い、風穴まで繋がる横道が近くにあることが分かり、予定通り「涼」を目指すことができました。斜面にある心もとない細道を横切っていく途中でも、落ち葉が堆積した柔らかい地面や、鳥の青い羽、孵化後の卵の殻に気付き感動したことを思い出します。お蔭で集中力を切らさず(つまり崖から落ちこちずに)歩みを進めることができました。風穴に近づくにつれ、景色が苔むした岩場に変わり、ひんやりした空気が足元から流れてきます。



風穴に着くと一帯の空気が涼しく、地球から湧き出る天然のクーラーを求めて登ってきた甲斐があったとしみじみ感じました。

めいめいに昼食をとった後は下山です。ルートミスをどこでしたのか確認しつつの下山になりました。15時頃になると日も傾き、薄暗い場所が増えてきて少し不安になっていました。さらに疲れから脚ももつれはじめましたが、怪我だけはしないよう注意して下っていき、ソババツケに着いた所で見落としの看板を見つけました。注意を払っていただければ気付ける看板でしたが、完全に見落としていました。こういった看板だけではなく、樹に結ばれている目印を自分で見ることで、読図スキルや道具を身に付けることの大切さを痛感した出来事でした。I藤さんは天狗岩まで行けなかったことをとても残念がってくださいましたが、かえって良い勉強になったと感じています。無心に登っているうちは分かりませんが、下っていると長い距離を登ることができたのだなぁと実感し、心地よい疲労感を感じました。まだまだ未知の険しい山があると思いますが、どうにか登り切れて良かったです。下山後は、馬子草(まごそ)温泉に連れて行っていただき、茶色く濁った熱い湯で疲れが吹っ飛びました。山田SAで紹介してもらった朝倉の卵焼きも美味しく、I藤さんには何から何まで本当にお世話になりました。初めてで不安もありましたが、おかげで山の面白さを色々な面から満喫することができました。心から感謝いたします。ありがとうございました。

<所感・I藤>

大戸越えから奥ゼリまでの登山道は、天候不良や濃霧だと赤テープが分からず迷い込んでしまいます。また、道幅は細く切れ落ちているところもあるので、新人のT口さんにとっては、若干怖かったかなと反省しております。しかし、弱音を吐かず黙々と黙々と慎重に歩かれていた姿は、とても印象的でした。今後もこの調子で様々な登山道を歩いてほしいと願います。

これまで何度も訪れているこのコース。前述の通り、不覚にもルートの誤りに気づくのが遅れました。しかしながら、「災い転じて福となす」平治岳へのルートが発見出来、奥ゼリを経由して最後は風穴で楽しむという、サブコースとしても良いかなと思います。さらに、来年のミヤマキリシマはこのコースでのプランニングも楽しめるかなあと考えています。(※濃霧には注意※)

